

ベトナム・フーイエン大学の短期海外研修を終えて

ベトナム研修において、英語を用いた交流を十分に行うことができた。さらに、ベトナムの文化について体験し理解を深める経験ができた。

現地の学生と関わりながら食事を取ったり、市街を歩いたり、伝統文化を体験したりすることでベトナムの文化について深く学び、多文化についてより高い関心を持つことに繋がった。ベトナムだけではなく多様な異文化に対しても関心を持つようになった理由の一つとして、言語でのコミュニケーションを行うことができたからであると考える。今後においても、特に英語でのコミュニケーションについての学習に励みたい。

また研修を通して、海外の方々に日本の伝統文化や観光地、食文化や人々の暮らしに関心を持って欲しいとの思いも強まり、互いの文化を尊重し合いながら活動することができたと実感した。このように、互いの文化を尊重し合うということは、グローバル化が進む世界に生きる社会人にとって非常に重要なことで、「誰もが取り残されない社会」の形成の第一歩ではないかと考える。本研修を終えて、フーイエン大学と和歌山信愛大学の双方が、このような思いを抱いている点からも、両大学間の友好親善をさらに深める研修であったといえるだろう。

私は教員となった際に、この経験を活かして多様な文化に関心を持つことができる授業づくりに努めたい。多様な文化に関心を抱くことは、互いの違いを認め合い、尊重し合うことができることであると考える。この考えをもとに、互いを尊重し合うことができる子どもの育成、学級経営に活かしていく決意である。